

令和3年度（2021年度）大分大学グローバル感染症研究センター
共同研究 成果報告書

| | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------|
| 採択番号 | 2021B09 | |
| 申請者に関する事項 | 氏名 | 森 毅彦 |
| | 所属機関名 | 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科 血液内科学 |
| | 職名 | 教授 |
| 研究課題名 | 造血幹細胞移植後のトキソプラズマ症診断における PCR 法の有用性の検討 | |
| 研究期間 | 2021年12月1日～2022年3月31日 | |
| 本センター対応教員 | 緒方 正男 | |
| 令和3年度（2021年度）年度研究成果の概要 | | |
| <p>本研究では造血幹細胞移植後に発症する予後が極めて不良なトキソプラズマ症の診断および抗体陽性者において再活性化の早期検出における PCR の有用性を検討することを目的としている。研究計画に沿った今年度の成果に関しては以下の通りである。</p> <p>① トキソプラズマ症の確定診断例の臨床検体からの PCR による <i>T. gondii</i> の検出 今年度は、病理診断あるいは抗体価により確定診断された症例の臨床検体を用いた PCR の有用性の検討は該当症例がなく、実施できなかった。</p> <p>② トキソプラズマ症が疑われる症例の臨床検体からの PCR による <i>T. gondii</i> の検出 トキソプラズマ症が疑われるが、診断に至らない 22 症例の臨床検体から DNA を抽出して PCR により、<i>T. gondii</i> の検出を試みたが、陽性となった症例はなかった。</p> <p>③ トキソプラズマ抗体陽性者の PCR による <i>T. gondii</i> 再活性化のモニタリング 造血幹細胞移植後のトキソプラズマ症は抗体陽性（既感染）者からの <i>T. gondii</i> の再活性化により発症するため、抗体陽性者を高リスク症例と定義して、検討を行った。1 症例が対象となり、モニタリングを行ったが移植後に陽性化することはなく、経過した。これにより途中、原因不明の発熱などを認めたが、トキソプラズマ症を除外することができた。</p> <p>また医学生物学研究所と連携して、体外診断薬開発のための準備を行っているが、感度・特異度の検証を行っている段階である。 なお、本研究では大分大学腫瘍・血液内科学講座とは連携して、臨床検体の提供に加え、HHV-6 等で培われた real-time PCR の手法に関する技術提供をいただく予定となっているが、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、今年度は実施出来なかった。</p> | | |